

第2章 スポーツを取り巻く現状と課題

1 市民のスポーツ活動の現状

本計画を策定するに当たり、市民の皆様への運動・スポーツ活動に関する現状と課題を把握するため、市民アンケート調査を実施しました。

調査対象 厚木市に居住する16歳以上79歳以下の市民 2,500人
(住民基本台帳から無作為抽出)

調査時期 令和元年10月18日～11月8日

調査方法 郵送による配布・回収

有効回収数 690人(有効回収率 27.6%)

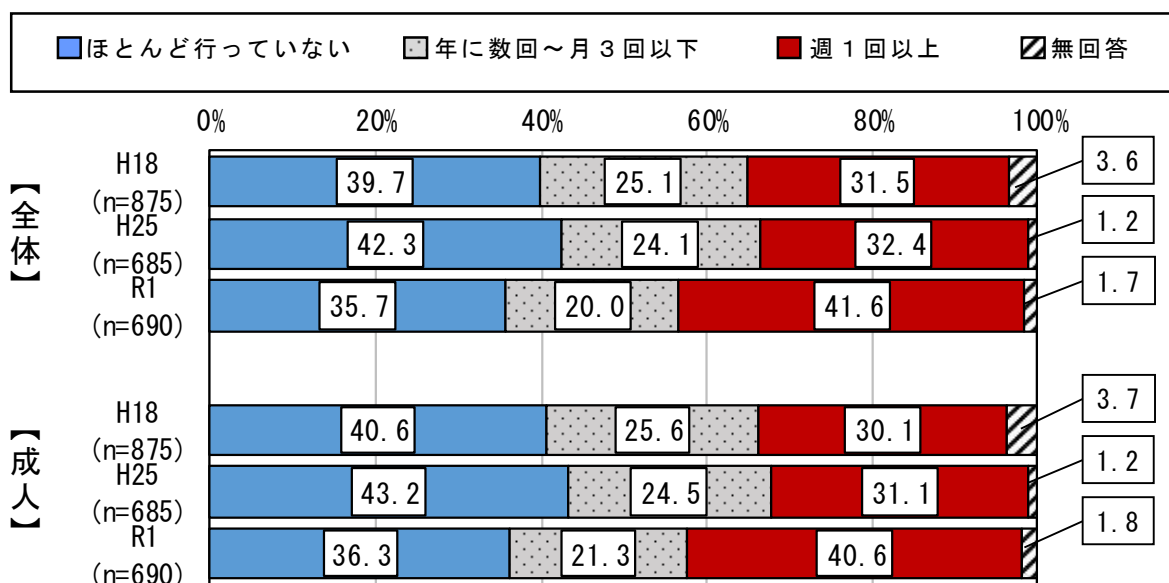
数字の見方 調査結果の比率は、全て百分率(%)で表しています。小数第2位を四捨五入していますので、合計が100%にならない場合があります。なお、「n」は、各設問の回答者数を表しています。

(1) スポーツ実施率

16歳以上79歳以下の市民の皆様へのスポーツ実施率については、前回調査(平成25年度)に比べ、「週に1回以上行っている」が32.4%から41.6%に上昇しているとともに、「ほとんど行っていない」(スポーツ非実施者)が42.3%から35.7%に減少し、全体ではスポーツ実施率が向上しています。

また、成人(20歳以上79歳以下)の週1回以上のスポーツ実施率については、前回調査(平成25年度)の31.1%から40.6%に上昇していますが、令和元年度の全国平均(53.6%)及び神奈川県平均(54.2%)や、第1次計画の目標値50%以上を下回っています。

【スポーツ実施率】



【スポーツ実施率（年代別）】

年代別で見たスポーツ実施率の特徴については、16歳以上19歳以下の年代では、「週に1回以上」と回答した割合が75.0%、このうち、「ほぼ毎日行っている」と回答した割合は30.0%であり、他の年代と比べて、スポーツ実施率が非常に高くなっています。

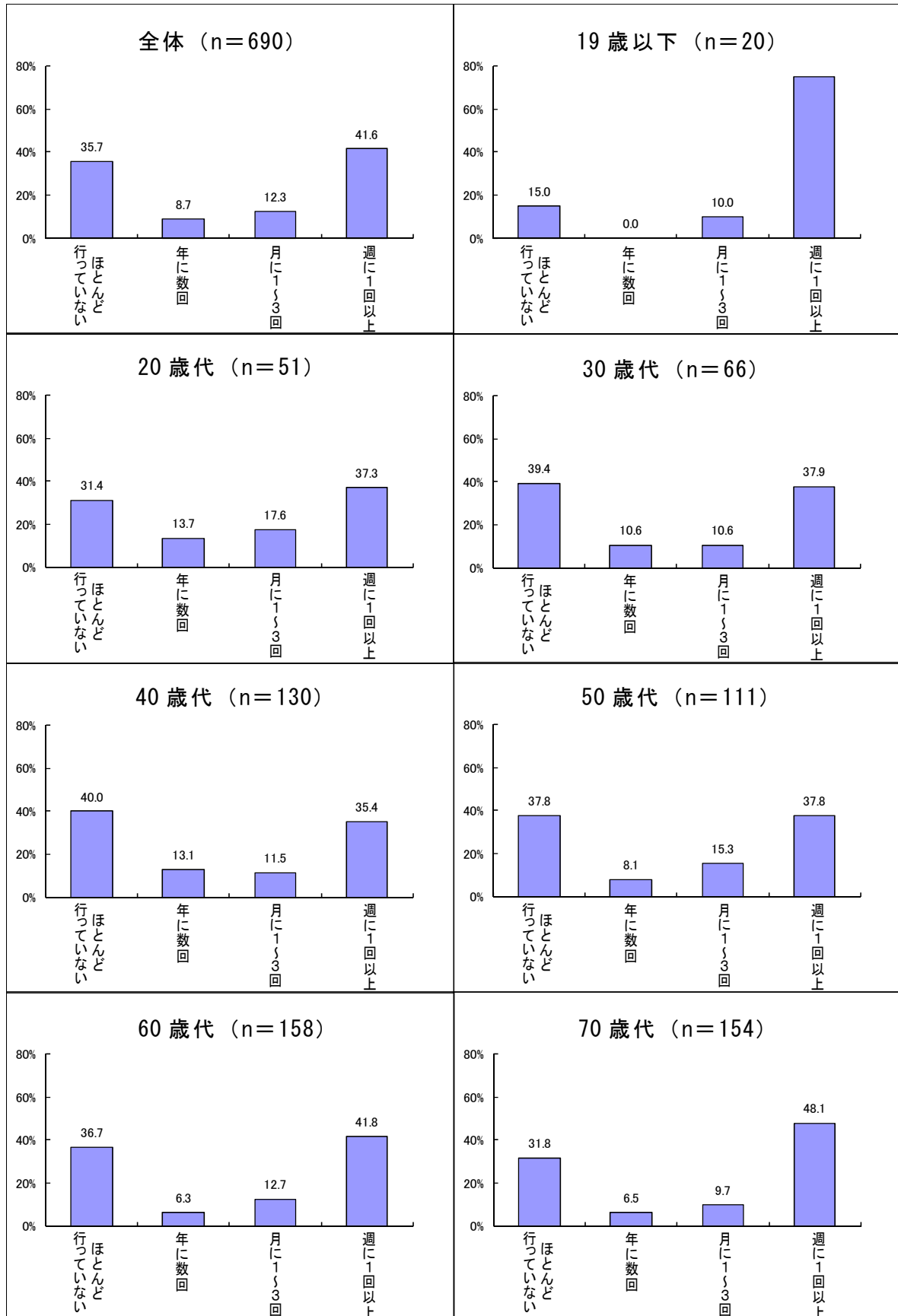
一方、20歳代から50歳代までの年代では、「週に1回以上」と回答した割合が成人の平均を下回っています。「ほとんど行っていない」と「週に1回以上行っている」と回答した割合がそれぞれ約40%となっており、スポーツの実施について二極化の傾向が見られます。なお、30歳代及び40歳代では、「ほとんど行っていない」の割合が「週に1回以上行っている」よりも高く、他の年代と比べスポーツ非実施率が高くなっています。

また、60歳代及び70歳代でも、二極化の傾向は見られるものの、「週に1回以上行っている」と回答した割合が成人の平均を上回り、特に70歳代では、48.1%という高い数値になっています。

年 代	ほとんど 行ってい ない	年数回	月1回 ～ 月3回	週に1回 以上行っ ている	特 徴
16歳以上 19歳以下 (n=20)	15.0%	0.0%	10.0%	75.0%	スポーツ実施率が非常に高い
20歳代 (n=51)	31.4%	13.7%	17.6%	37.3%	ほとんど行っていない人と週に1回以上行っている人との二極化。 週に1回以上のスポーツ実施率が平均を下回る。
30歳代 (n=66)	39.4%	10.6%	10.6%	37.9%	
40歳代 (n=130)	40.0%	13.1%	11.5%	35.4%	
50歳代 (n=111)	37.8%	8.1%	15.3%	37.8%	
60歳代 (n=158)	36.7%	6.3%	12.7%	41.8%	週に1回以上のスポーツ実施率が平均を上回る。
70歳代 (n=154)	31.8%	6.5%	9.7%	48.1%	
全体平均 (n=690)	35.7%	8.7%	12.3%	41.6%	16歳以上 79歳以下の スポーツ実施率
成人平均 (n=670)	36.3%	9.0%	12.4%	40.6%	20歳以上 79歳以下の スポーツ実施率

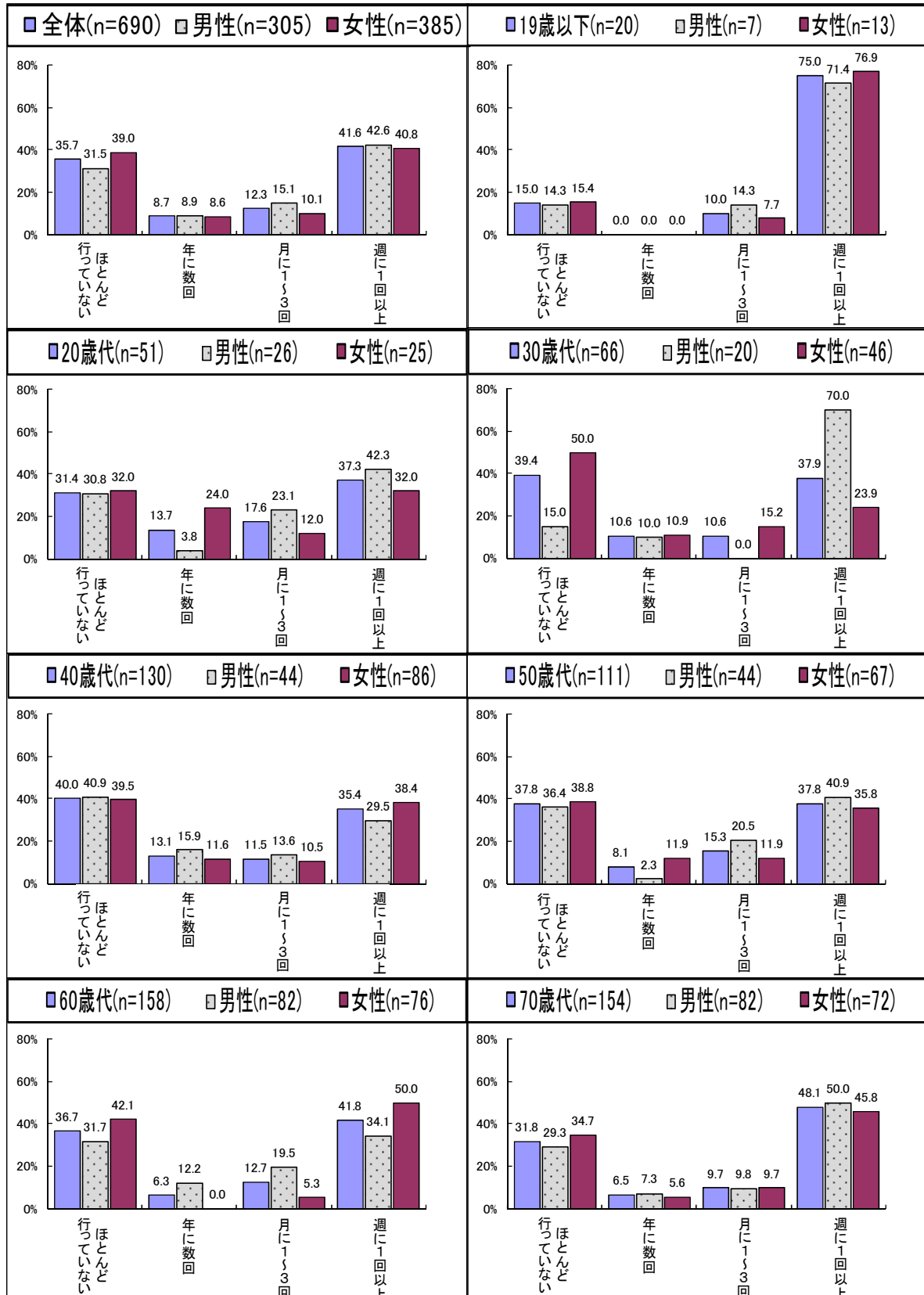
【スポーツ実施率（年代別）】

年代別のスポーツ実施率をグラフにしたものが下の図です。19歳以下を除き、各年代ともに「ほとんど行っていない」と「週に1回以上行っている」に大きく分かれ、二極化の傾向があります。



【スポーツ実施率（男女・年代別）】

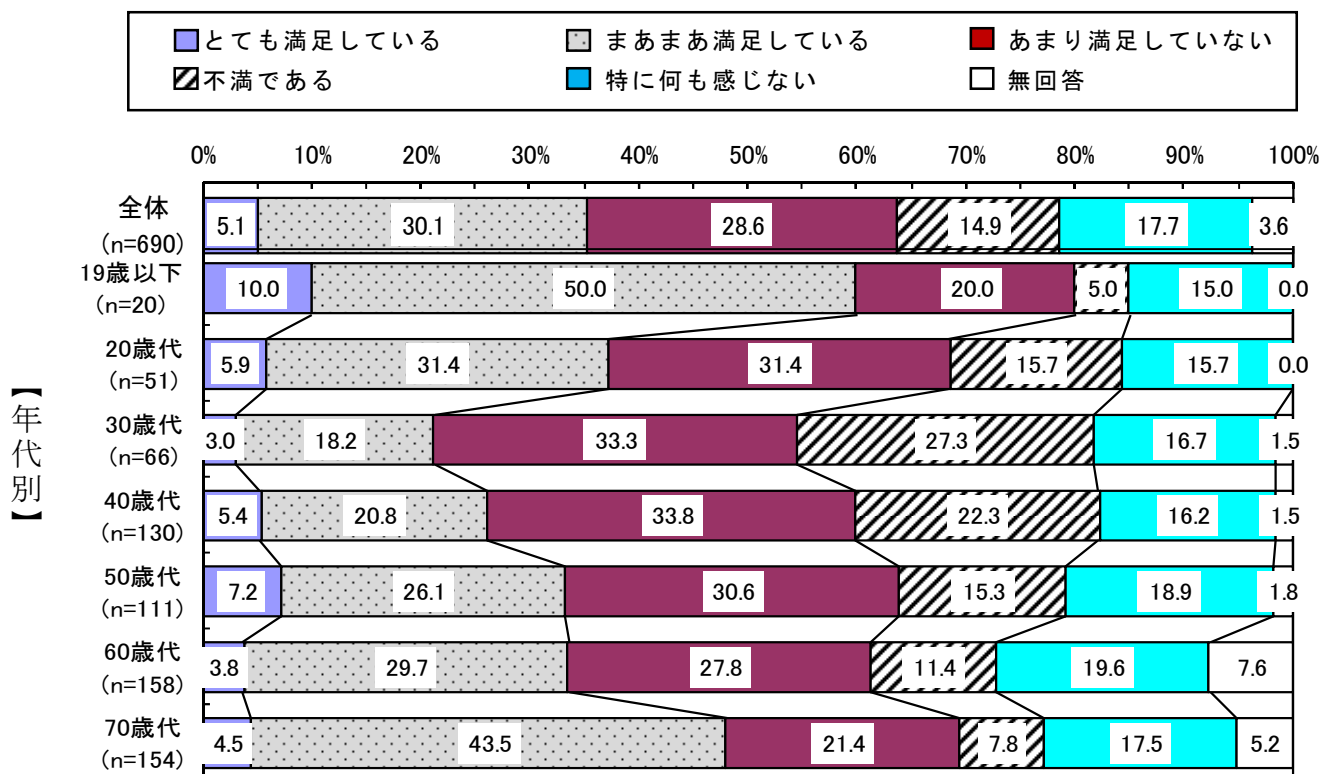
男女・年代別で見ると、30歳代で男女差が大きくなっています。「週に1回以上行っている」については、男性70.0%、女性23.9%と男性が女性を大きく上回り、他方、「ほとんど行っていない」は、男性15.0%、女性50.0%と女性が男性を大きく上回っています。



(2) スポーツ活動の頻度に対する満足度

市民の皆様のスポーツ活動の頻度に対する満足度については、16歳以上19歳以下の年代及び70歳代では、「満足と感じている割合」（「とても満足している」及び「まあまあ満足している」の回答者数の合計）が「不満足と感じている割合」（「あまり満足していない」及び「不満である」の回答者数の合計）を大きく上回っています。

他方、20歳代から60歳代までは、「不満足と感じている割合」が「満足と感じている割合」を上回り、特に、30歳代及び40歳代では、「不満足と感じている割合」が過半数を超えています。

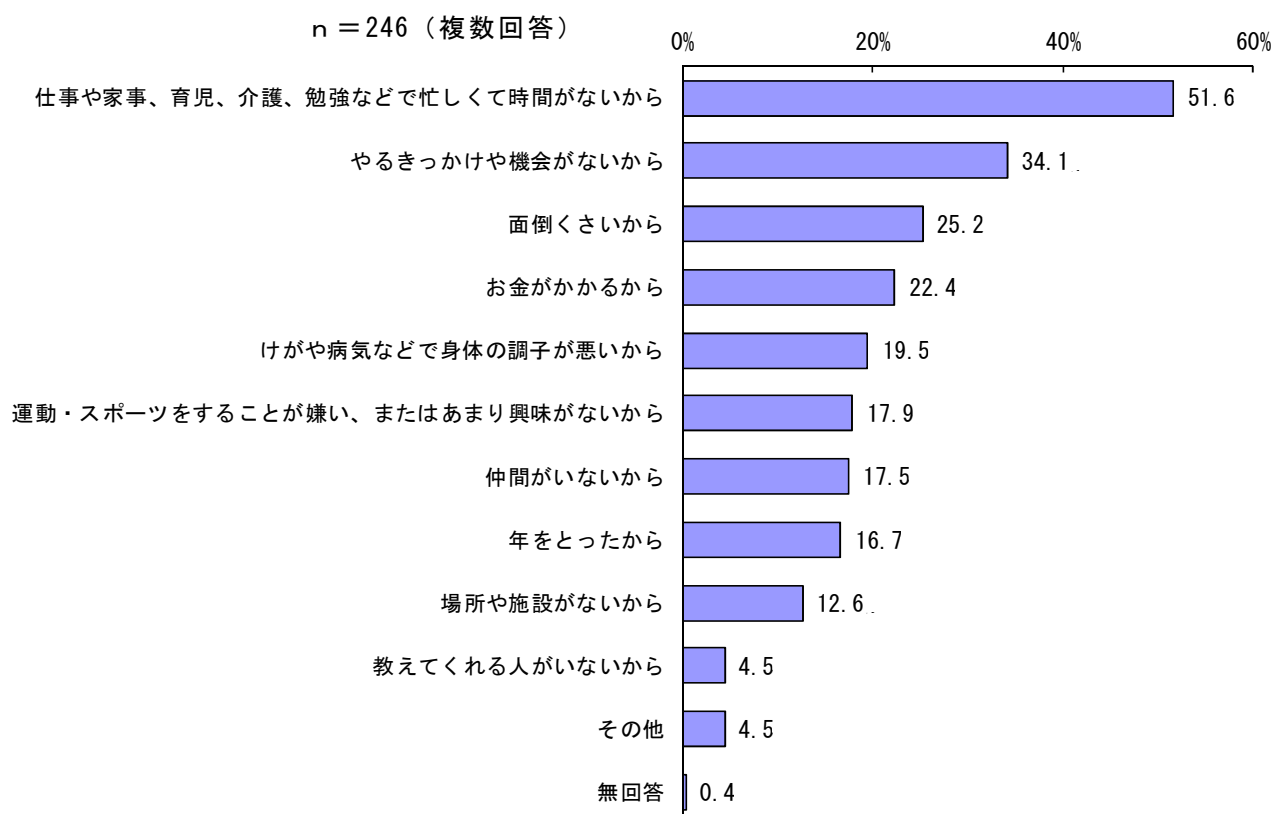


(3) スポーツをほとんど行っていない理由

「ほとんど行っていない」と回答した人がその理由として挙げているのは、「仕事や家事、育児、介護、勉強などで忙しくて時間がないから」が51.6%を占め、最も高くなっています。60歳代及び70歳代を除くと、各年代ともに約60%以上、特に30歳代に限っては80.8%が仕事や家事、勉強等の忙しさを理由に挙げています。

次に、「やるきっかけや機会がないから」(34.1%)、「面倒くさいから」(25.2%)、「お金がかかるから」(22.4%)、「けがや病気などで身体の調子が悪いから」(19.5%)、「運動・スポーツをすることが嫌い、またはあまり興味がないから」(17.9%)という順で続きます。

また、70歳代では、「けがや病気などで身体の調子が悪いから」(42.9%)が最も高く、次に「年をとったから」(36.7%)と続きます。



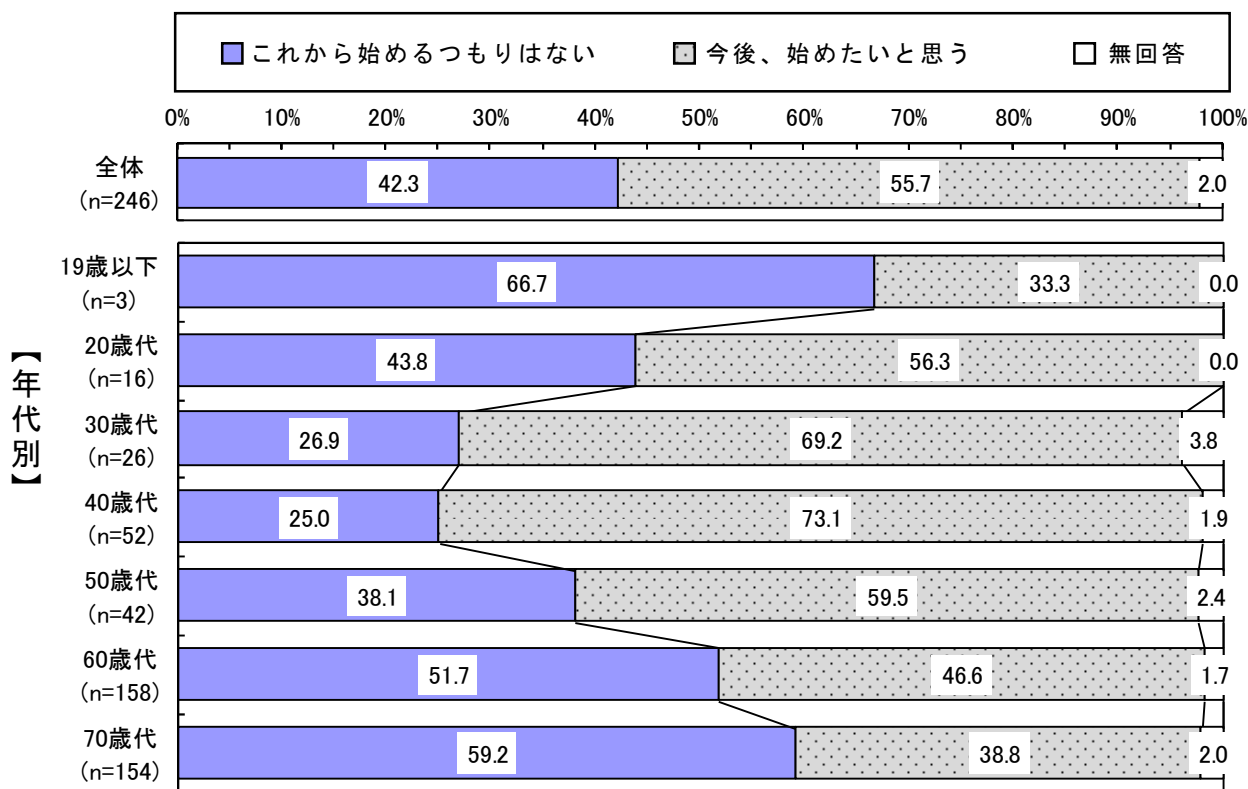
【スポーツをほとんど行っていない理由（年代別）】

	仕事や家事、育児、介護、勉強などで忙しくて時間がないから	やるきっかけや機会がないから	面倒くさいから	お金がかかるから	けがや病気などで身体の調子が悪いから	運動・スポーツをすることが嫌い、またはあまり興味がないから
全体	51.6%	34.1%	25.2%	22.4%	19.5%	17.9%
16歳以上 19歳以下	66.7%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	68.8%	43.8%	50.0%	37.5%	0.0%	25.0%
30歳代	80.8%	50.0%	42.3%	30.8%	7.7%	26.9%
40歳代	63.5%	40.4%	23.1%	28.8%	11.5%	19.2%
50歳代	59.5%	38.1%	33.3%	23.8%	16.7%	23.8%
60歳代	39.7%	29.3%	19.0%	24.1%	20.7%	17.2%
70歳代	24.5%	18.4%	8.2%	4.1%	42.9%	6.1%

	仲間がいないから	年をとったから	場所や施設がないから	教えてくれる人がいないから	その他	無回答
全体	17.5%	16.7%	12.6%	4.5%	4.5%	0.4%
16歳以上 19歳以下	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
20歳代	37.5%	0.0%	18.8%	6.3%	0.0%	0.0%
30歳代	26.9%	3.8%	19.2%	3.8%	0.0%	0.0%
40歳代	15.4%	7.7%	21.2%	5.8%	3.8%	0.0%
50歳代	11.9%	11.9%	4.8%	4.8%	7.1%	0.0%
60歳代	15.5%	22.4%	8.6%	5.2%	8.6%	1.7%
70歳代	14.3%	36.7%	8.2%	0.0%	2.0%	0.0%

(4) 今後、スポーツを始めたいか

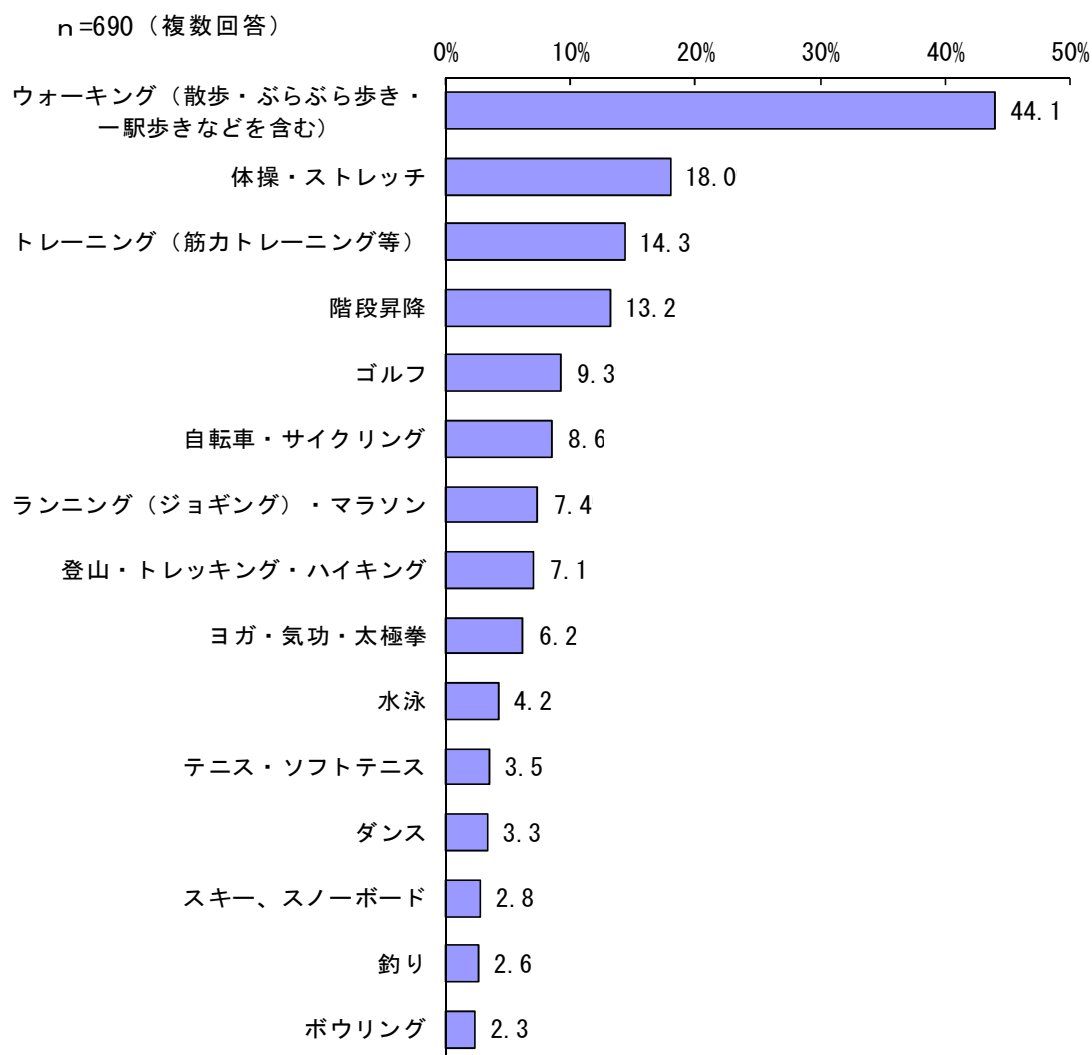
「ほとんど行っていない」と回答した人のうち55.7%が「今後、始めたいと思う」と回答し、「これからも始めるつもりはない」と回答した人は42.3%となっています。スポーツ実施率の低い30歳代及び40歳代では、約70%が今後スポーツを始めたいと回答しています。



(5) 現在行っているスポーツ種目及び今後行ってみたいスポーツ種目

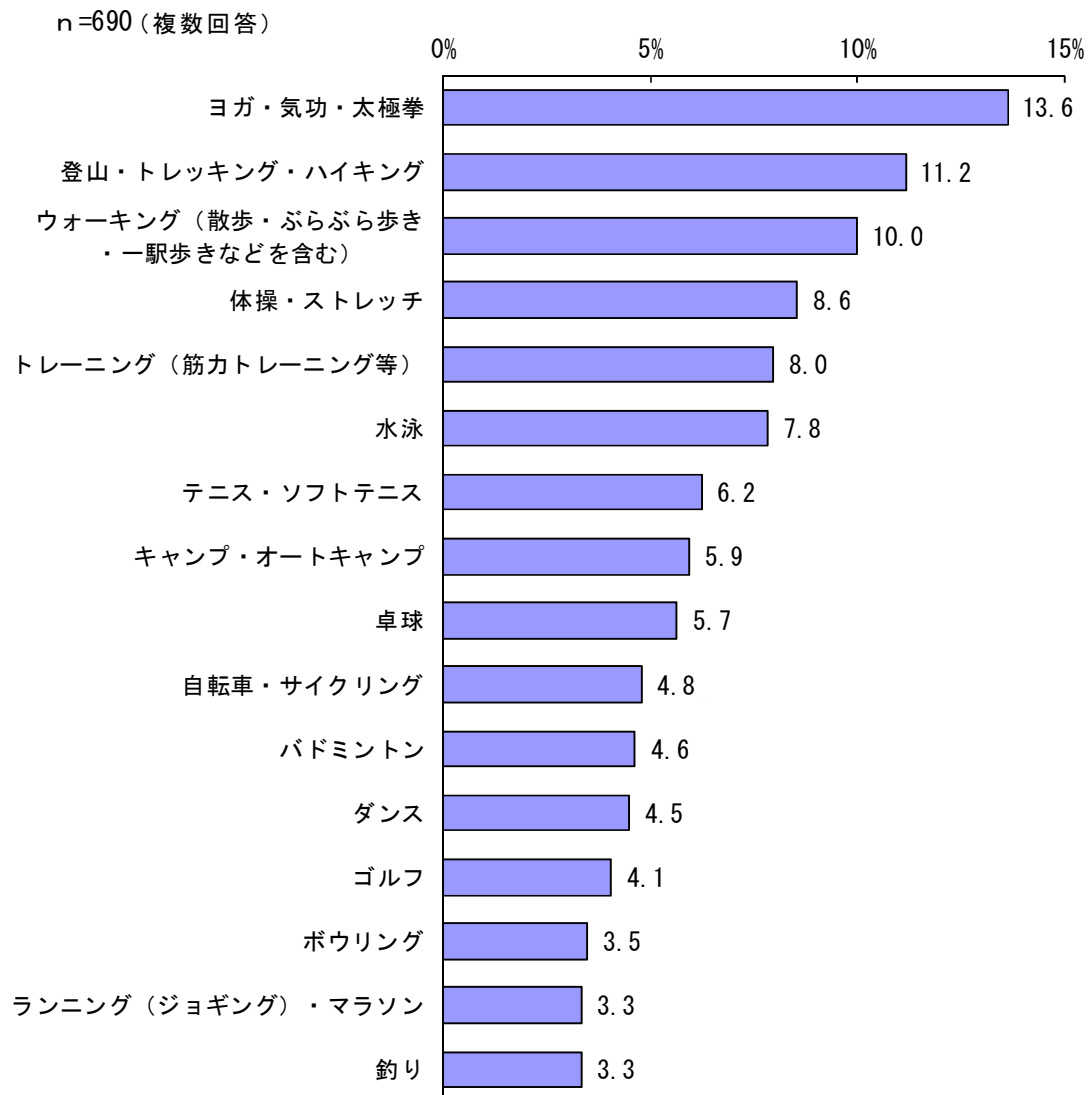
現在行っているスポーツの種目については、「ウォーキング（散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む。）」と回答した人の割合が44.1%と最も高く、次に、「体操・ストレッチ」、「トレーニング（筋力トレーニング等）」、「階段昇降」と続き、日常生活の中で一人でも行うことができる運動が上位を占めています。

【現在行っているスポーツ種目】



【今後行ってみたいスポーツ種目】

現在は行っていないけれども今後行ってみたいスポーツ種目については、「ヨガ・気功・太極拳」と回答した人の割合が13.6%と最も高く、「登山・トレッキング・ハイキング」、「ウォーキング（散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）」、「体操・ストレッチ」、「トレーニング（筋力トレーニング等）」と続き、一人でもできる運動が同じく上位を占めています。



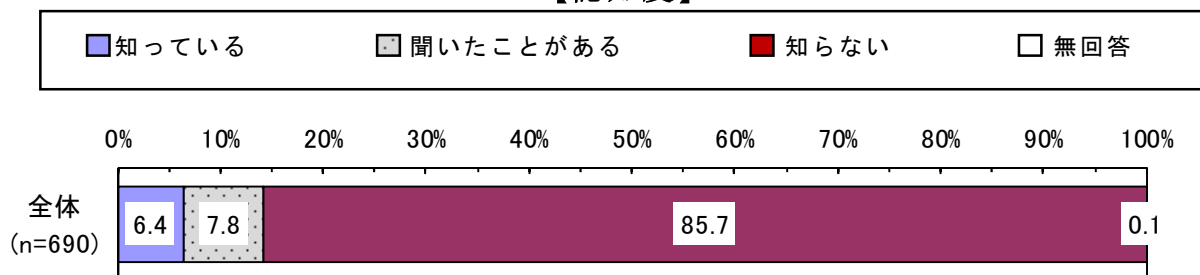
(6) 総合型地域スポーツクラブ※について

総合型地域スポーツクラブについての認知している人（「知っている」及び「聞いたことがある」と回答した人の合計）の割合は14.2%を占めています。

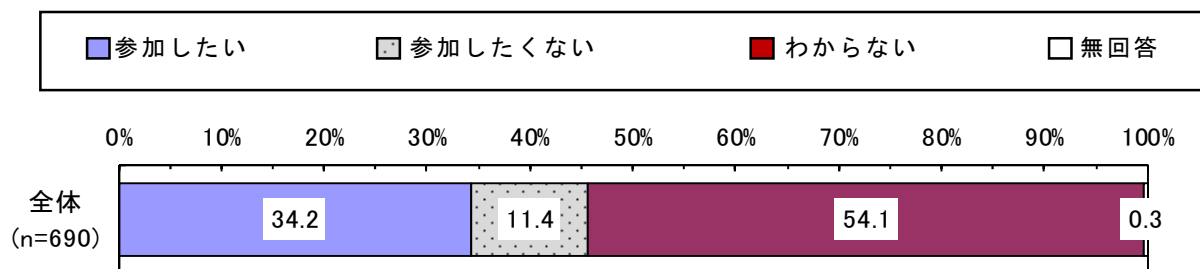
一方、「知らない」と回答した人の割合は85.7%を占め、多くの人認知していないことが分かります。

また、身近な場所に総合型地域スポーツクラブがあれば「参加したい」と回答した人の割合は34.2%、「わからない」と回答した人の割合は54.1%となっています。特に60歳代では41.1%の人が「参加したい」と回答しています。

【認知度】



【参加したい・参加したくない】



※ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツを親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多趣向）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。それぞれの地域において、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

（スポーツ庁ホームページ「総合型地域スポーツクラブ」から抜粋）

【総合型地域スポーツクラブについて（年代別）】

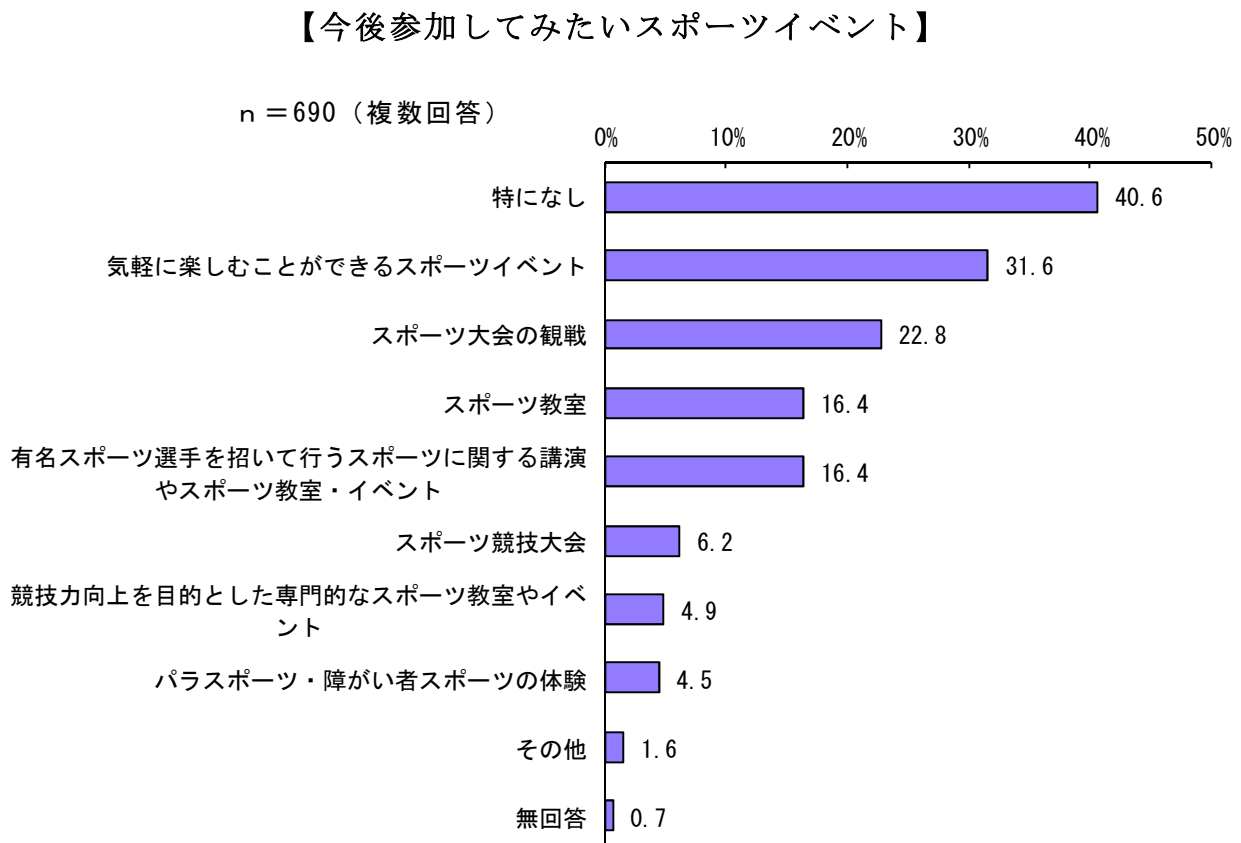
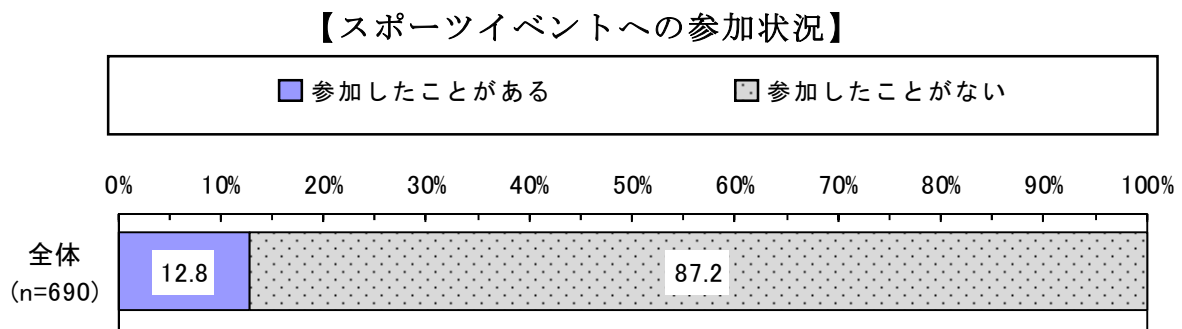
	知っているか				参加したいか			
	知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	参加したい	参加したくない	わからない	無回答
全体	6.4%	7.8%	85.7%	0.1%	34.2%	11.4%	54.1%	0.3%
16歳以上 19歳以下	0.0%	15.0%	85.0%	0.0%	10.0%	35.0%	55.0%	0.0%
20歳代	7.8%	0.0%	92.2%	0.0%	29.4%	11.8%	58.8%	0.0%
30歳代	1.5%	4.5%	93.9%	0.0%	21.2%	12.1%	66.7%	0.0%
40歳代	6.9%	7.7%	85.4%	0.0%	36.9%	8.5%	54.6%	0.0%
50歳代	6.3%	5.4%	88.3%	0.0%	36.9%	6.3%	56.8%	0.0%
60歳代	5.1%	8.9%	86.1%	0.0%	41.1%	9.5%	49.4%	0.0%
70歳代	9.7%	11.7%	77.9%	0.6%	33.1%	16.2%	49.4%	1.3%

(7) スポーツイベントへの参加状況

本市及び公益財団法人厚木市スポーツ協会（以下「厚木市スポーツ協会」という。）が主催するスポーツイベントに「参加したことがある」と回答した人の割合は12.8%、「参加したことがない」と回答した人の割合は87.2%です。

今後、参加してみたいと思うスポーツイベントについては、「特になし」（40.6%）、「気軽に楽しむことができるスポーツイベント」（31.6%）、「スポーツ大会の観戦」（22.8%）、「スポーツ教室」及び「有名スポーツ選手を招いてスポーツに関する講演やスポーツ教室・イベント」（ともに16.4%）の順で続いています。

成人の回答結果については、どの年代もおおむね似た傾向になっていますが、20歳代については、「スポーツ競技大会」（17.6%）が4番目に高くなっています。



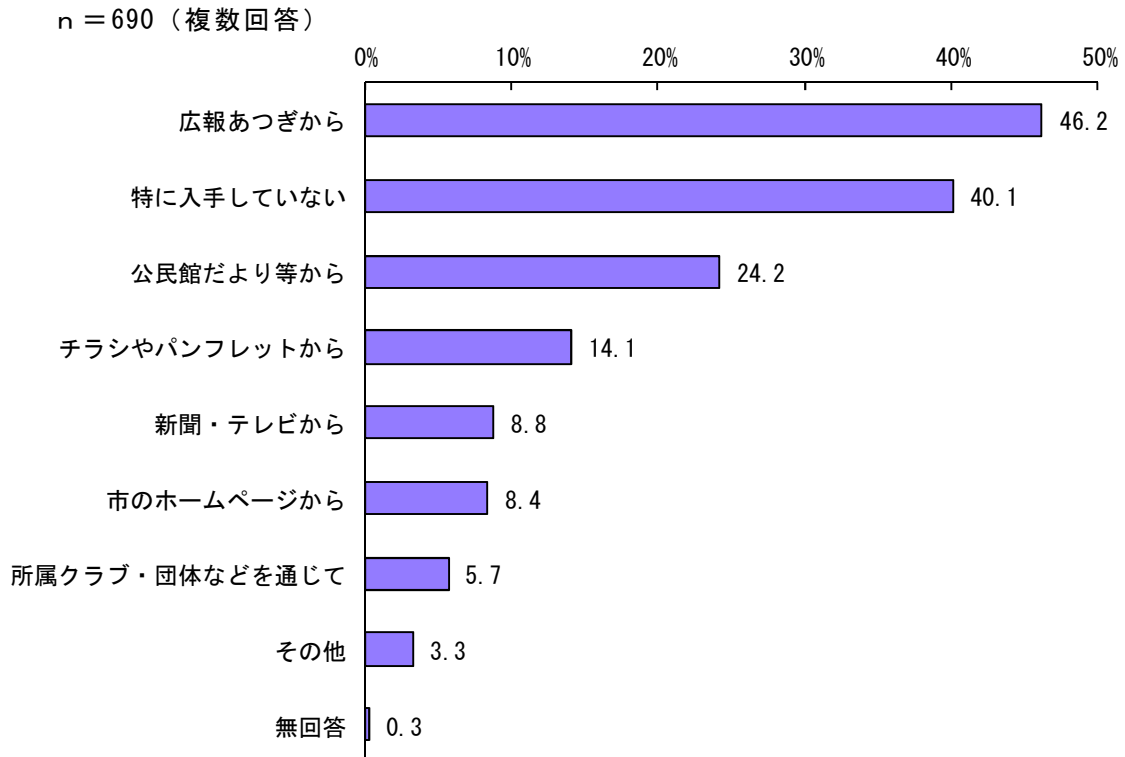
【今後参加してみたいスポーツイベント（年代別）】

	特になし	気軽に楽しむことができるスポーツイベント	スポーツ大会の観戦	スポーツ教室	有名スポーツ選手を招いて行うスポーツに関する講演やスポーツ教室・イベント
全体	40.6%	31.6%	22.8%	16.4%	16.4%
16歳以上 19歳以下	35.0%	25.0%	35.0%	0.0%	10.0%
20歳代	37.3%	31.4%	25.5%	7.8%	15.7%
30歳代	39.4%	30.3%	16.7%	21.2%	22.7%
40歳代	32.3%	35.4%	23.8%	18.5%	20.8%
50歳代	36.9%	30.6%	27.9%	22.5%	19.8%
60歳代	43.0%	32.9%	22.2%	19.0%	13.3%
70歳代	50.0%	29.2%	18.8%	10.4%	11.7%

	スポーツ競技大会	競技力向上を目的とした専門的なスポーツ教室やイベント	パラスポーツ・障がい者スポーツの体験	その他	無回答
全体	6.2%	4.9%	4.5%	1.6%	0.7%
16歳以上 19歳以下	0.0%	5.0%	10.0%	5.0%	0.0%
20歳代	17.6%	13.7%	3.9%	5.9%	0.0%
30歳代	9.1%	6.1%	3.0%	1.5%	0.0%
40歳代	7.7%	5.4%	6.2%	2.3%	0.0%
50歳代	3.6%	3.6%	4.5%	1.8%	0.9%
60歳代	5.1%	5.7%	6.3%	0.6%	0.6%
70歳代	3.9%	1.3%	1.3%	0.0%	1.9%

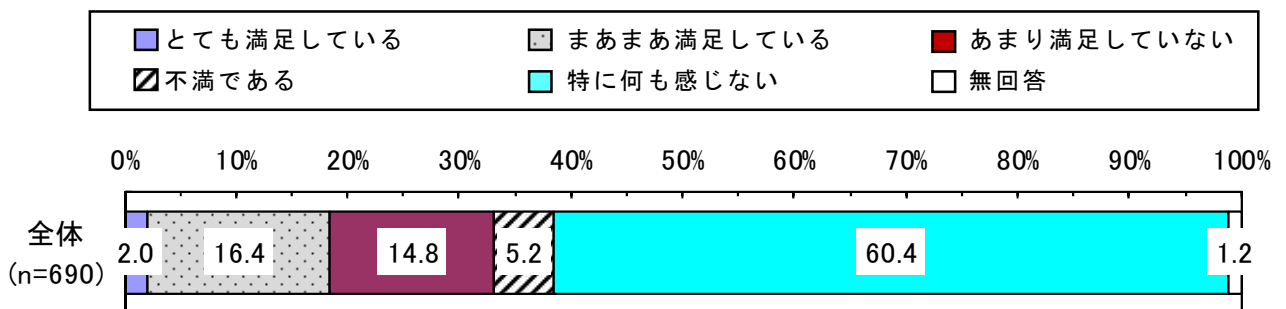
(8) スポーツに関する情報

スポーツに関する情報の入手方法については、「広報あつぎから」と回答した人の割合（46.2%）が最も高く、「特に入手していない」（40.1%）、「公民館だより等から」（24.2%）、「チラシやパンフレットから」（14.1%）という順で続きます。



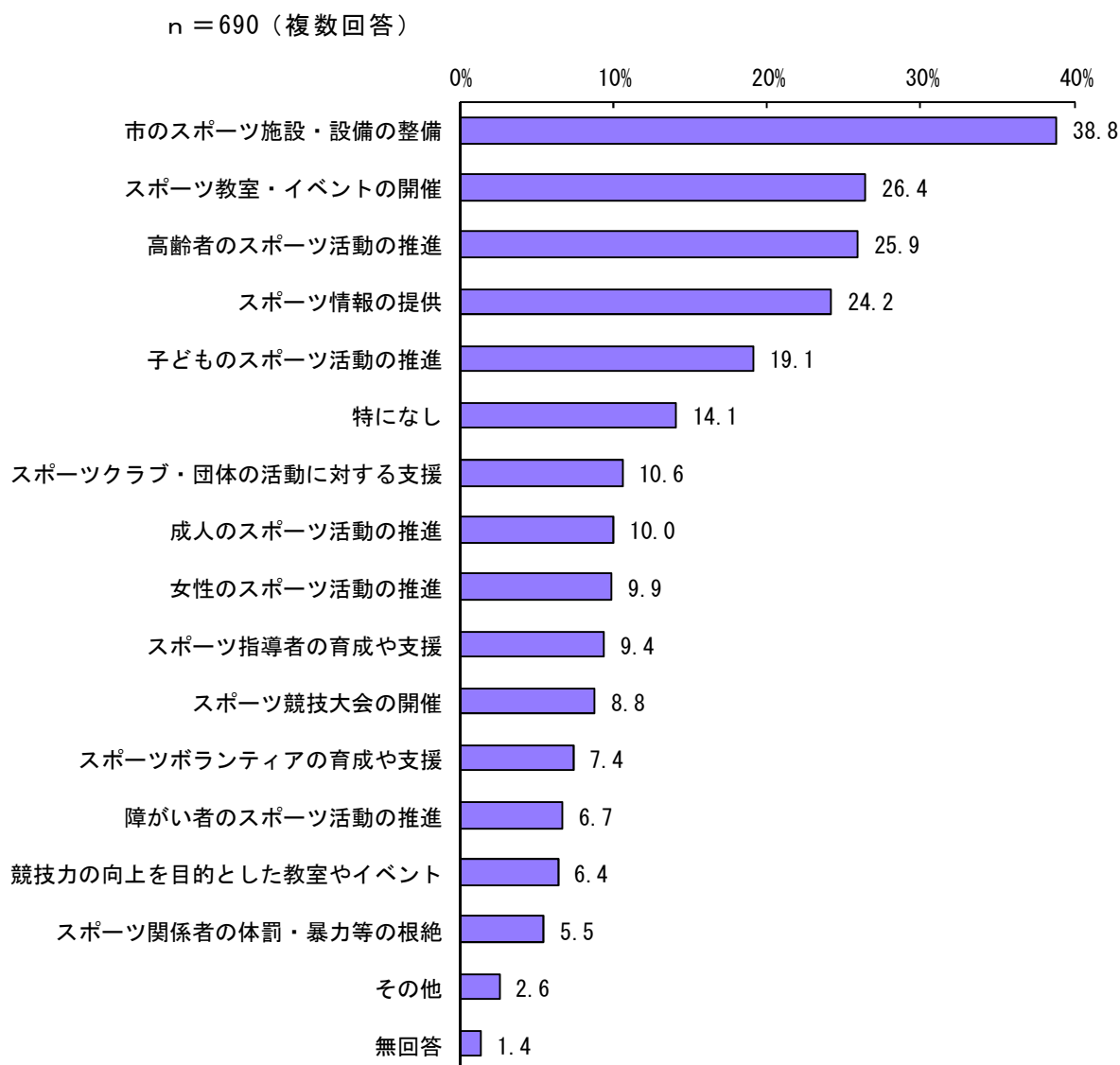
(9) スポーツ事業（イベント、施設運営等）について満足しているか

本市が実施しているスポーツ事業（イベント、施設運営等）について、満足と感じている人の割合（「とても満足している」及び「まあまあ満足している」と回答した人の合計）は 18.4%、不満足と感じている人の割合（「あまり満足していない」及び「不満である」と回答した人の合計）は 20.0%、「特に何も感じない」と回答した人の割合は 60.4%となっています。



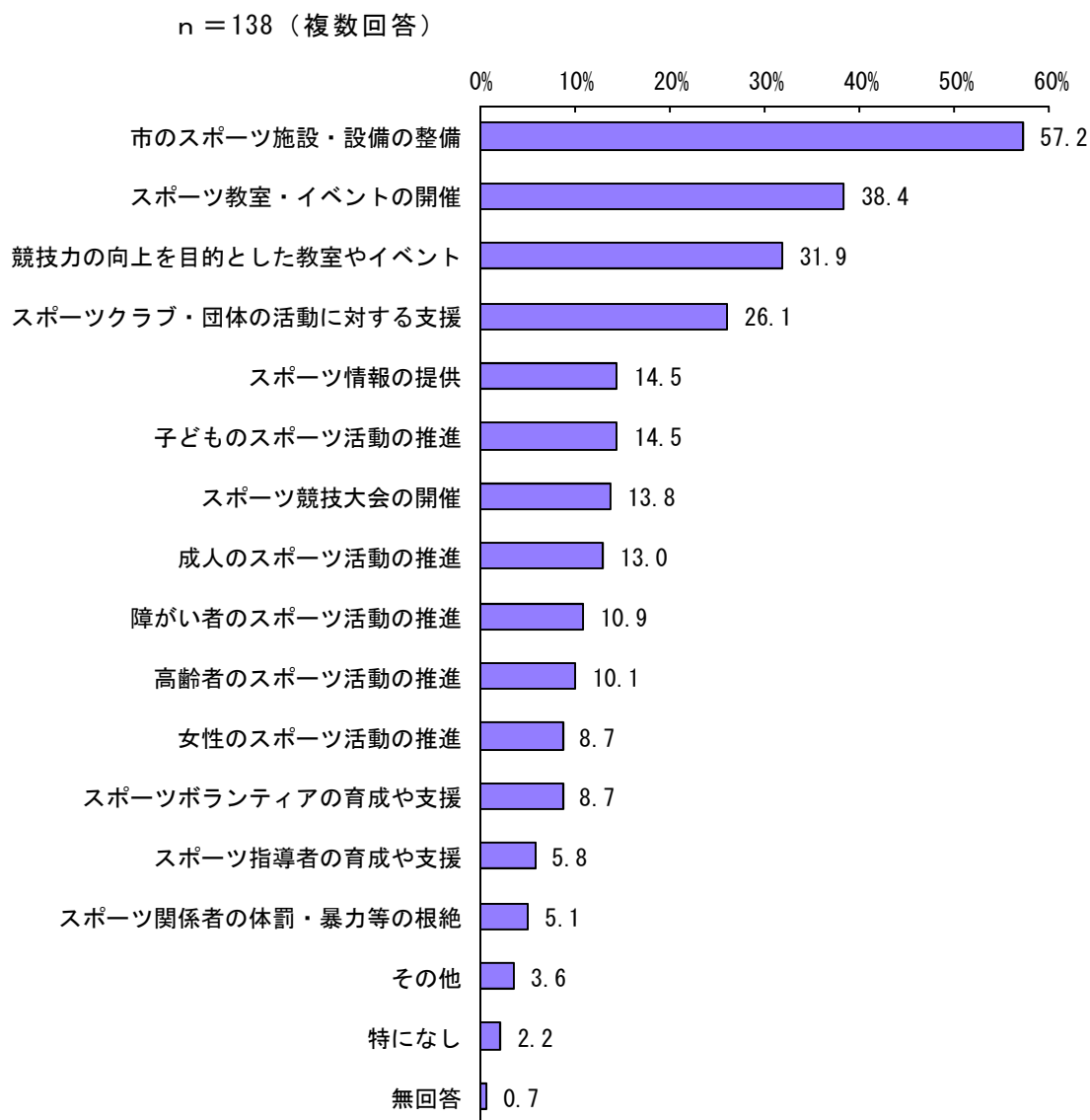
(10) 今後、どのようなことに力を入れるべきか

今後、市が力を入れて取り組むべきことについては、「市のスポーツ施設・設備の整備」と回答した人の割合（38.8%）が最も高く、「スポーツ教室・イベントの開催」（26.4%）、「高齢者のスポーツ活動の推進」（25.9%）、「スポーツ情報の提供」（24.2%）という順で続きます。



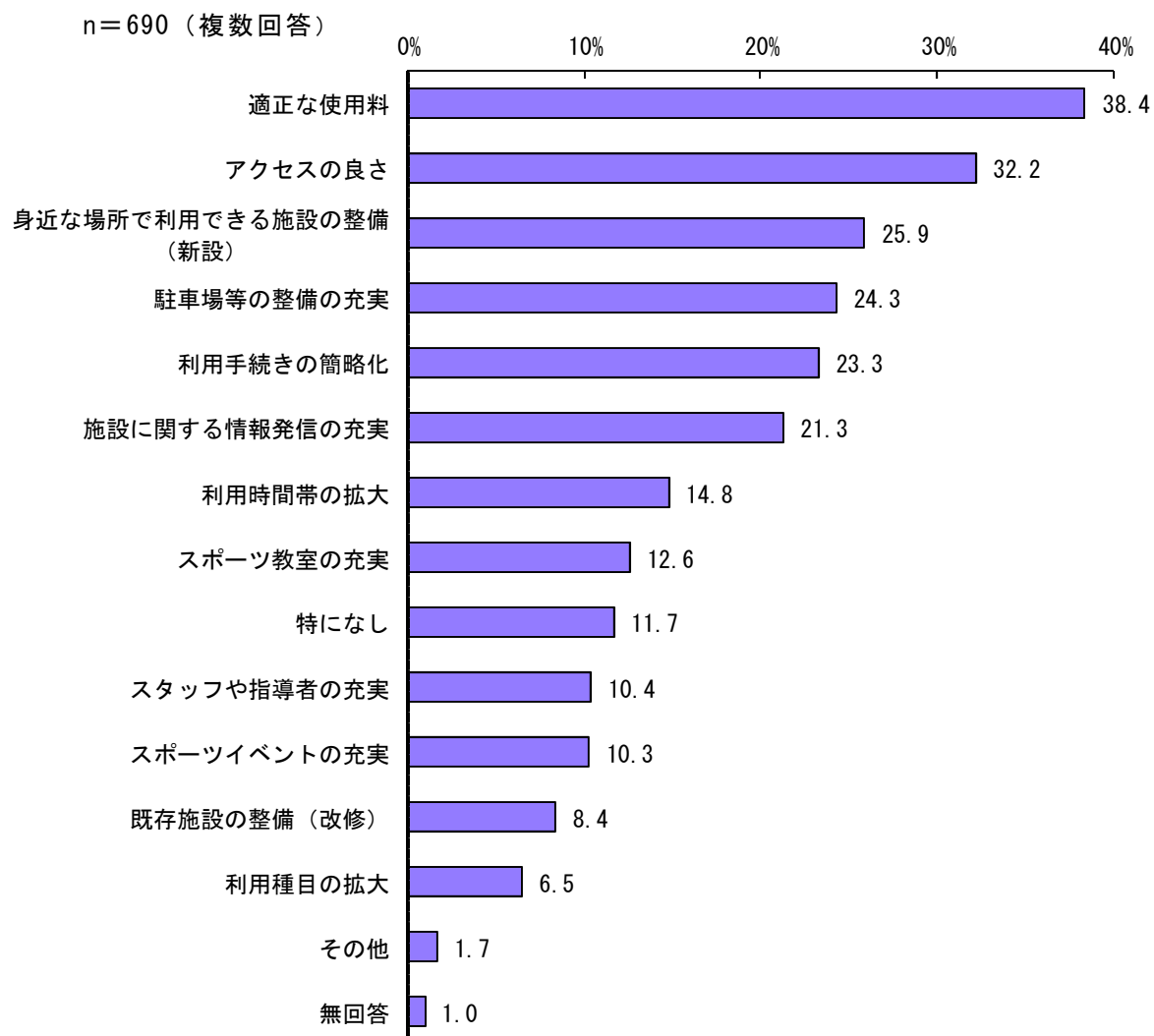
【今後どのようなことに力を入れるべきか（満足度別）】

今後、市が力を入れて取り組むべきことについて、本市が実施しているスポーツ事業（イベント、施設運営等）に不満足と感じている人（「あまり満足していない」及び「不満である」と回答した人の合計）からの回答結果を見ると、「市のスポーツ施設・設備の整備」（57.2%）、「スポーツ教室・イベントの開催」（38.4%）、「競技力の向上を目的とした教室やイベントの開催」（31.9%）の順で続いています。



(11) スポーツ施設の利用には、どのようなことが重要か

スポーツ施設を利用するために重要なことについては、「適正な使用料」を挙げた人の割合が38.4%と最も高く、次に「アクセスの良さ」が32.2%、「身近な場所で利用できる施設の整備（新設）」が25.9%という順で続きます。



2 子どもの体力・運動能力、運動習慣等の現状

全国の小学5年生及び中学2年生を対象に、スポーツ庁が「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施しました。

本市の小・中学生については、体力の項目で全国及び県平均を下回っています。「運動が好き」と回答した子どもの割合は、小学5年生男子と中学2年生女子が全国平均を上回りましたが、小学5年生女子と中学2年生男子では全国平均を下回っています。

また、1週間の総運動時間については、小学生では男女ともに全国及び県平均を下回りましたが、中学生では男女ともに上回っています。

体 力 (80点満点)	区分	小学5年生		中学2年生	
		男子	女子	男子	女子
	全国	53.61点	55.59点	41.69点	50.22点
県	53.17点	54.25点	41.71点	49.66点	
厚木市	51.82点	53.80点	41.09点	49.04点	

※小学生8種目、中学生9種目の実技調査

運動が好き	区分	小学5年生		中学2年生	
		男子	女子	男子	女子
	全国	71.2%	55.5%	62.9%	46.9%
県	72.0%	55.3%	63.8%	47.7%	
厚木市	72.0%	51.6%	60.4%	48.8%	

1週間の 総運動時間	区分	小学5年生		中学2年生	
		男子	女子	男子	女子
	全国	558.1分	349.6分	834.7分	609.9分
県	600.9分	352.8分	888.9分	667.5分	
厚木市	515.1分	319.4分	934.0分	744.6分	

※学校の体育の授業以外で運動・スポーツを行った時間

3 スポーツ施策の主要課題

(1) 多様なニーズ・ライフステージに対応したスポーツ施策の展開

市民アンケート調査の結果では、週に1回以上、定期的にスポーツを行っている人の割合は41.6%です。一方、年間を通じてほとんどスポーツを行っていない人の割合は35.7%であることから、スポーツを行う人と行わない人に二極化しています。スポーツをほとんど行わない人の55.7%は、今後スポーツを始めてみたいと回答していますが、42.3%の人は、今後もスポーツを始めるつもりはないと回答しています。スポーツをほとんど行わない理由として最も多いのは、仕事や家事、育児、介護、勉強などで忙しいことが挙げられており、51.6%を占めています。また、「運動・スポーツをすることが嫌い、またはあまり興味がないから」と回答している人が17.9%います。

スポーツ実施率を向上させ、スポーツ人口を増やしていくためには、各年代のニーズやライフステージに対応した施策を展開するとともに、スポーツを継続できる環境づくりが必要です。また、スポーツに無関心な人に対しては、スポーツの楽しさ・素晴らしさを実感できる機会を提供したり、運動が健康に及ぼす効果などを啓発し、スポーツに関心をもつていただくことが必要です。

(2) 未来を担う子どもの健全育成

子どもたちがスポーツを行う機会を充実させることで、子どもが健全に育ち、他者との協働や公正さと規律を重んじる社会の形成が推進されると考えられます。

また、スポーツの楽しさ・素晴らしさを実感することで、スポーツが好きな子どもが増え、生涯にわたってスポーツを継続することができます。

中学校の運動部活動については、現在、専門的知識と技能を有する部活動指導員及び部活動指導協力者を配置しています。今後は、子どもが学校を卒業した後も、地域の仲間とスポーツを継続して行うことができるよう、地域住民の皆様が主体となって運営する多種目、多年代、多志向型の総合型地域スポーツクラブなどとの連携についても検討していく必要があります。

また、大学や企業が集積するという本市の強みをいかし、大学や企業等と連携を図るなどして、トップアスリートなどの最高峰に触れる機会を創出し、スポーツにチャレンジできる場を整備することも必要です。

(3) 健康で活力に満ちた長寿社会の実現

超高齢社会が進展する中、心身の健康の保持・増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会を実現するために、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する必要があります。

ライフステージの最初の段階にある子どもについては、スポーツ習慣を身に付けることで、生涯にわたってスポーツを継続できるような施策を展開する必要があります。

多忙なビジネスパーソンや子育て年代については、一人でも手軽にスポーツを行うことができる環境づくりを進め、健康維持、生活習慣病の予防に向けた施策を展開する必要があります。

高齢者については、安全にスポーツをできる施設の整備や、適切な運動指導ができる指導者を育成することにより、スポーツを始めるきっかけを作り、スポーツの習慣化を通じて健康寿命^{※1}を伸ばす必要があります。

(4) 地域から作り上げる強い絆^{きずな}で結ばれた共生社会の実現

年齢、性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、各地域の特性をいかしたスポーツ活動を通じて相互理解と心のバリアフリーを推し進め、強い絆^{きずな}で結ばれた活力ある共生社会を実現する必要があります。

一人暮らし世帯が増加している高齢者については、フレイル化^{※2}を予防し、心身ともに健康を維持することが必要です。地域において、スポーツを通じた交流の機会を創出することは、今後もますます重要になります。

スポーツ推進委員及び体育振興会委員は、スポーツ活動を支える担い手として、地域の交流を深め、コミュニティ形成に寄与しています。この取組を更に進める一方で、総合型地域スポーツクラブが地域住民の皆様を巻き込んだ活動を展開し、コミュニティ形成の新たな核になれるよう、支援を行う必要があります。

※1 健康寿命

日常的な介護に頼ることなく、心身ともに健康で暮らすことができる期間のこと。

※2 フレイル化

年を取って体や心の働き、社会的なつながりが弱くなった状態。そのまま放置すると、要介護・要支援状態になる可能性がある。

(5) 良好なスポーツ施設の提供

市民の皆様がいつでも気軽に利用できるよう、公共スポーツ施設の特徴に応じた効果的で効率的な施設運営に努め、既存スポーツ施設の現状や課題などを把握するとともに、施設全体の総量の抑制を図った上で新たなスポーツ施設の検討も踏まえ、スポーツ施設の望ましい在り方、施設の適正配置等を検討し、計画的な施設整備を図る必要があります。

(6) 持続可能な開発目標（SDGs）の推進

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された平成28年（2016年）から令和12年（2030年）までの国際目標です。貧困・格差の撲滅、環境保護など、持続可能な世界を実現するための取組であり、全ての人間の権利保障を目指し、地球上の誰一人として取り残さないと誓っています。17のゴール（目標）と169のターゲットから構成されており、健康、教育、コミュニティの強化など、スポーツが果たす役割の重要性を指摘しています。

少子高齢化や人口減少が進行する中、将来に向けて持続可能な社会を形成するためには、スポーツが持つ力を使って、幸福で豊かな生活を実現すること、未来を担う子どもの心身を健全に育成すること、健康で活力に満ちた長寿社会を実現すること、年齢、性別、国籍、障がいの有無にかかわらず相互に尊重し合う共生社会を実現すること、スポーツ施設の効率的な運営と適正配置を行うことなど、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえた取組を推進する必要があります。

